

平成30年度 研究活動のまとめ

1 研究テーマ

『児童一人ひとりがかかわり合い運動の楽しさや喜びを味わう体育学習』

2 研究経過

第1回			第2回			第3回			第4回		
期日	人数	場所	期日	人数	場所	期日	人数	場所	期日	人数	場所
5月24日	33人	甲佐小	11月9日	28人	広安小	12月3日	29人	白旗小	1月24日	32人	小坂小

3 研究の概要

(1) 研究の内容

① 研究テーマ設定の理由

小学校の体育では、「心と体を一体としてとらえ、適切な運動の経験と健康・安全についての理解を通して、生涯にわたって運動に親しむ資質や能力の基礎を育てるとともに、健康の保持増進と体力の向上を図り、楽しく明るい生活を営む態度を育てる。」を目指している。この目標を達成するためには、児童一人一人が喜んで生き生きと取り組む体育学習を創造し、生涯にわたり運動に親しむことのできる資質や能力、態度の基礎を育成しなければならない。そこで、今年度も本研究テーマを設定し研究することにした。

また、運動領域においては、学習内容を明確にし、確実に身に付けさせるための適切な指導の在り方とし、保健領域においては「学習過程の工夫」と「ライフスキルの育成」、共通の視点として「指導と評価の一体化」に焦点を絞って研究を進めることにした。

② 研究の重点（学習指導要領の趣旨にもとづいた実践）

	重 点		授 業 の 主 張 点
運動領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習内容の明確化</li> <li>・ 指導方法の工夫・改善</li> <li>・ 課題解決学習</li> <li>・ かかわりあいの活性化</li> </ul>	一 体 化  指 導 と 評 価 の	<ul style="list-style-type: none"> <li>① 教材の特性（設定理由を明確に）</li> <li>② 身に付けさせたい学習内容の明確化</li> <li>③ 教師の意図的・計画的な指導</li> <li>④ 教具やルールの工夫</li> </ul>
保健領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ ライフスキルの育成</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>① 学習過程の工夫</li> </ul>

③ 研究の実際

ア 研究授業①（益城地区）

5年「マット運動（器械運動）」授業者 古閑 寛人教諭（広安小学校）

児童が運動のコツを理解することができるよう、伝える視点をもつことができるように、手や目のカードなど教具の工夫がされていた。発見ボードに運動のコツをまとめるなど、単元を通して児童が技能を身に付けることができるようしている授業であった。

イ 研究授業②（甲佐・山都地区）

2年「器械・器具を使った運動遊び（マットを使った運動遊び）」授業者 高尾悠教諭（白旗小学校）

児童の実態から、運動を楽しいと感じ、運動に親しむための工夫がなされた授業であった。

※実践報告参照

ウ 研究授業③（御船地区）

5年「タグラグビー（ボール運動）」授業者 森田 耕平教諭（小坂小学校）

チームで運動を楽しく継続して行えるための工夫。仲間とのかかわりの活性化（教具の工夫・ポイントやこつの共有化）について工夫されていた。簡易されたゲームにより、児童の実態にあったルールの工夫や、ゲームを中心とした展開により、児童の必要簡易応じた学習がなされた授業であった。

## (2) 成果と課題

### ① 成果

- 児童の実態を考慮し、「なにを」「いつ」「どこで」「どのようにして」指導するか、計画的な指導計画が作成され、見通しを持った指導ができていた。
- 身に付けさせたい学習内容の定着のために、教材教具の工夫や場づくり、ルールなどの工夫がどの授業においてもなされ、児童の技能の向上や仲間とのかかわり合いを深めることに有効であった。

### ② 課題

- 教師の指導場面など、児童と教師のやりとりや、運動の中での対話的な活動により共通理解を図っていく必要がある。

## 4 実践事例

2年「器械・器具を使った運動遊び（マットを使った運動遊び）」授業者 高尾悠教諭(白旗小学校)

### (1) 授業研究会の概要

#### 【自評】

運動遊びの場を3つ設定したが、児童の動きを引き出すことができる場になっていたか。コミュニケーションボードを使い、コツの共有と伝え合う言語活動の場を設定したことで、低学年でも、運動の視点を明確にした情報共有ができた。ペア学習により、他を意識した活動ができるようにし、かかわり合いの中で運動を楽しんでいると感じる活動を多く取り入れた。

#### 【質疑応答及び協議】

①Q：場の設定に、ストーリー性を取り入れた意図について教えてほしい。

A：最初は動物だった。しかし、なかなか思いつかなかった。児童には遊びにこだわってさせたかった。肋木を使いたかったが体育館になかった。児童はこれまでストーリーにハマりは感じられなかった。

②Q：運動遊びをどのように捉えているか。

A：自分の中で答えがない。遊びを通して運動をしながらコツやポイントを見つけてほしいと思っている。

③Q：関わり合いをどこまで求めるか。

A：体育ならではの関わり合いをさせたい。運動の特性に関して関わり合いをさせたかった。

④Q：教師側から着手の指導はしたのか。

A：児童は「手パー」として指導していた。安全面は不十分どころがある。

⑤Q：共通しためあてを書いていたが、今後は共通しためあてになるのか。

A：5時間以降、6、7時間目は思考判断でとっていきたいので自分で考えて選んでめあてを選んで書いていく。児童たちは「今回はこれを頑張ろう」というように決めて書かせる。

#### 【グループ協議】

- ・子ども達同士で声をかけ合い、協力してスムーズに活動できていた。
- ・スイッチオンタイムから、主運動までの繋がりが良く、運動量の確保ができていた。
- ・平均台や固定夫施設を使って工夫ができてあり、引き出したい動きへつながっていた。
- ・子ども同士が、意図的にアドバイスをする場を設定していたのはよかった。
- ・運動（動き）の視点がはっきりしており、伝え合いなどペアでの関わり合いの中で学習が進められていた。

#### 【助言・まとめ】

##### (成果)

- ・ポイントの指導の仕方が参考になった。特別支援担任、支援員との連携がとれている。今日指導する場に張り付きでできたことは参考になる学習形態であった。
- ・運動遊びについては様々な考え方があるが、「子どもにとって」遊びの要素があるか。「教師にとって」指導すべき場を設定しているかを考える必要がある。低学年にポイントばかり指導してしまうと遊びの要素がなくなってしまう。

##### (課題)

- ・授業で教えなくてもできる児童がいるのが体育である。すなわち、決められためあてを行うと楽しめない児童がいるかもしれない。自己決定することも必要になってくる。自分で挑戦するめあてを作ることが大切になる場面がある。

(2) 学習指導案（一部抜粋）

2年生 器械・器具を使つての運動遊び 甲佐町立白旗小学校体育館 白旗小学校 高尾悠 教諭  
単元名 「うんどうの国をたびしよう」

【運動の特性】

- ①「B器械・器具を使つての運動遊び」は「固定施設を使った運動遊び」と「マットを使った運動遊び」、「鉄棒を使った運動遊び」、「跳び箱を使った運動遊び」で構成されている。
- ②「固定施設を使った運動遊び」とは、ジャングルジムや雲梯、登り棒、肋木、平均台などで、いろいろな登り下りや懸垂移動、渡り歩きや飛び降りをして遊んだり、逆さ姿勢などをとって遊んだりすることをねらいとした運動である。
- ③「マットを使った運動遊び」とは、マットに背中や腹などをつけていろいろな方向へ転がって遊んだり、手や背中で支持して逆立ちなどをして遊んだりすることをねらいとした運動である。
- ④「跳び箱を使った運動遊び」は、跳び箱を使って跳び乗りや跳び下りをして遊んだり、馬跳びやタイヤ跳びをして遊んだりすることをねらいとした運動である。

【児童の実態（男子11名 女子11名 合計22名）】

児童の体育の授業に関するアンケートでは以下の結果となった。（11月実施）

態度面に関しては、体育の授業に意欲的な児童が多いが、「跳び箱やマット、固定施設での運動」に対して3名、苦手意識がある児童が在籍していることが分かる。理由としては、跳び箱を跳ぶことができないことやマットで上手に回れないことなどをあげている。また、体育の授業の中で、友だちと協力することやルールを守って安全に学ぶことを意識できている児童が多いようである。しかし、友だちと協力することにおいてうまくいっていないと感じている児童が1名在籍している。

技能面に関して、事前に簡単な動きをさせてみた。以下の結果が分かった。跳び乗りや跳び下り、渡り歩きはほとんどの児童ができていたが、後ろ転がりや逆さの動きには個人差がありできなかった児童も数名在籍している。理由としては、後ろが見えないことへの恐怖感やどうしたらできるのかがまだ不透明な児童が多いように感じた。遊びを通して、様々な運動経験を仕組んでいく必要があると感じる。

思考面に関して、「マットで何をどうしたらうまく回れるか」の質問では、「膝をしっかりと丸めること」や「足の裏で着地をすること」、「手をパーにして支えること」「勢いを付けること」を答えた。「逆立ちで何をどうしたらうまくできるか」の質問では、「手をしっかりと着くこと」や「着地をしっかりと足の裏ですること」「手に力を入れること」を答えた。「平均台で何をどうしたらうまく渡れるか」という質問では、「手でバランスをとること」や「まっすぐ・慎重に歩くこと」「足の裏をしっかりと着いて真ん中を渡ること」などを答えた。

2年生なりになんとなくではあるが、運動のポイントについて考えていることが分かった。クラス全体で共通認識できる工夫を仕組んでいきたい。


【指導上の留意点】

- 児童が運動遊びを楽しむことができるように、運動のイメージが膨らむようなストーリー性を持たせた場の設定を行う。
- 児童が楽しく活動できるように、導入や活動の時に音楽を活用する。
- 評価をより具体的な児童の姿で描くとともに、きめ細やかな見取り及び積極的かつ双方向的な指導を行い、指導と評価の一体化を図る。
- 児童が「できた・わかった」と感じられる場の設定を行い、より運動の楽しさを感じることができるよう、児童の実態に応じて授業計画をしていく。
- 児童が仲間とともに課題を克服していけるよう、場の設定を工夫していく。
- 仲間との関わり合いや運動の心地よさを体感させ、本単元にスムーズに全児童が参加できるように、毎時間「スイッチオンタイム」を位置づけ、簡単な運動を楽しく行う。
- 仲間と伝え合いながら、課題が解決できるように、体の部分に着目したり、言葉や動きを分かりやすい用語にしたりして、より良い動きの共有化を図る。
- 見つけた良い動きや教師や友達からのアドバイスを共有化できるようにコミュニティーボードを活用する。
- 毎時間の振り返りでは、頑張っていた児童を称賛したり、発見したポイントを紹介したりする時間を設け、次時への意欲付けをする。

5 本時の学習（4／8）

(1) 本時の目標 手で支持して逆立ちをすることができる。《技能》

(2) 本時の展開

過程	時間	学習活動	指導上の留意点・評価	備考
導入	3分 4分	1 場づくりをする。 2 準備運動をし、スイッチオンタイムに取り組む。 準備体操、かえるの足うち、コンパス、ゆりかごじゃんけん	○準備はみんなで協力し合いながらできるようにする。安全な場作りのための確認を行う。 ○仲間との関わり合いや運動の心地よさを体感させ、苦手意識を持つ児童を運動に引き込むために、「スイッチオンタイム」を位置づける。	コミュニティーボード 音楽 単元表
展開	3分 20分 10分	3 めあての確認をする。 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">体を支えるコツを見つけよう</div> 4 3つの場のローテーションをしながら、運動に取り組む。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block; text-align: center;">さかさの場 川跳び、支持逆さ移動</div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">跳び箱 平均台の場 跳び下り 渡り歩き</div><div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center;">マットの場 いろいろな転がり方</div></div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">〈具体的な子どもの姿〉 手で体を支えながら逆立ち移動をしようとしている。</div> 5 コツを意識しながら、さかさの運動に取り組む。	○めあてを確認する。 ○単元計画表やコツを示した掲示を提示し、目的意識を持って運動に取り組めるようにする。 ○児童が楽しんで活動できるように音楽を活用する。 ○互いに声を掛け合ったり、励まし合ったりする雰囲気づくりに努めるとともに、声かけを積極的に称賛する。 ○児童が見つけた良い動き、教師や仲間からのアドバイスを共有できるようにコミュニティーボードに示し、良い動きを子どもがイメージしやすいようにする。 ○指導場面を位置づけ、子ども同士、または、教師と子どもの双方向的な言語活動の充実を図る。  ○具体的な児童の姿と重ねながら、子どもたちから出た意見に重点を置き指導する。必要に応じて、上手な児童を取り上げ、コツを意識させる。	ビブス 音楽 コミュニティーボード 学習シート
			〈指導場面〉 T うまく逆立ちができるコツは何でしょうか？ C 手でしっかり体を支えることだと思います。 T 肘と手はどうすればいいかな。 C 肘は伸ばして、手はしっかり開いて、パーにするといいかもしれない。 T 「肘ピン」「手パー」でいってみようね	〈評価〉手で支持して逆立ちをすることができる【技能】（観察・学習シート）
終末	2分 3分	6 学習のまとめをする。 7 後片付けと整理運動をする。	○学習カードを活用して、自己評価をさせ、次時の学習に見通しを持たせる。 ○頑張っていた児童を称賛したり、発見したコツを発表させたりしながら、次時の意欲付けとする。	